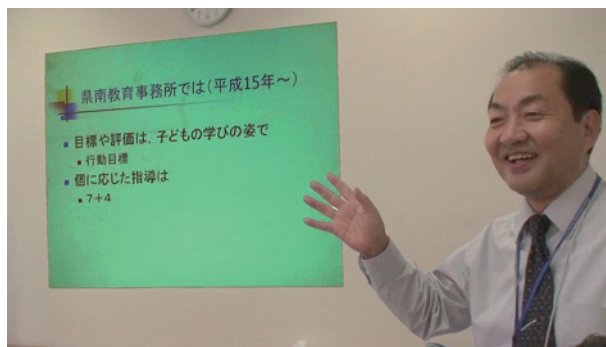


この「7+4」を、それぞれの地域の教員研修等で例題としているという方は、茨城県の森田充先生をはじめ大勢いらっしゃいました。

愛知県の橋本直子先生とECO Newsの仕事をしてくださっていた赤井真理子さんに代表となっただき、中山和彦先生と順子先生に、感謝の気持ちを込めて花束を贈呈させていただき、和やかだった会は、記念写真の撮影でお開きとなりました。

中山先生からは、「管理職で忙しいかもしれないが、若い人をよく指導してください」とのメッセージをいただきました。



プレゼンする森田充先生（茨城県）

先生方のプレゼンテーションから、印象的な言葉を拾ってみました。

■田川英明先生（相模原市）

「子どものためになっているの？、子どもの側に立って、子どもの理論で、子どもは正しく間違える」など、中山先生の言葉がこびりついている。学校ではいろいろ起こっているが、子どもの側に立ったとき、すべてが理解でき、納得できる。

■笹川信行先生（相模原市）

あの時は、チャイムが無い世界、没頭できる機会、外から学校を見ることができた機会だった。誤答分析、子どもの思考回路、認知心理学に関心を持った。「子どもはみんな違う。家庭環境も。子どもひとりひとりを」現場に戻って実感した。

■橋本直子先生（愛知県）

私は中山先生のファンでして、先生の熱い語りを聞かせていただくのが大好きです。涙が出てくるほどとても感動します。

■藤枝茂男先生（茨城県）

場違いの所にやる気のないまま来た。しかし、なめてたCAIはそうでもなく、一人ひとりに温かいことにびっくりした。コンピュータと教師の情熱にびっくりした。教育は科学だなと思って、それ以降は、「なんで？」と考えながら教育をやってきた。

■根本光子先生（茨城県）

「内地留学」、あの時のことを思えばなんでもできる。チャレンジ、常にチャレンジ。

■大塚隆幸先生（茨城県）

つくば市の発展とともに学校のコンピュータは充実してきた。激変してきた。内地留学によって、子どもたちに考えさせていく過程を重視することを知った。

■桜井規雄先生（茨城県）

「コンピュータを使って救われる子どもが、一人でも、二人でもいれば、使うことに意味がある」。これを聞いて、自分の教育の考えが変わった。

■立野健二先生（茨城県）

中山先生が、子ども一人ひとりを育てる教育の理想とコンピュータとを結び付けようとしていることを知って、自分はオタクではなく、教育のプロとして可能性を試しているんだというモチベーションで取り組んだ。

■尾崎吉彦さん・高木富士雄さん（シャープ）

このプロジェクトがこんなに続いている。社内で、これだけ継続してその仕事だけでやってこられた人はいない。

★今回は、紙面の都合で前半の方のみの紹介となりました。お許しください。（文責：東原義訓）



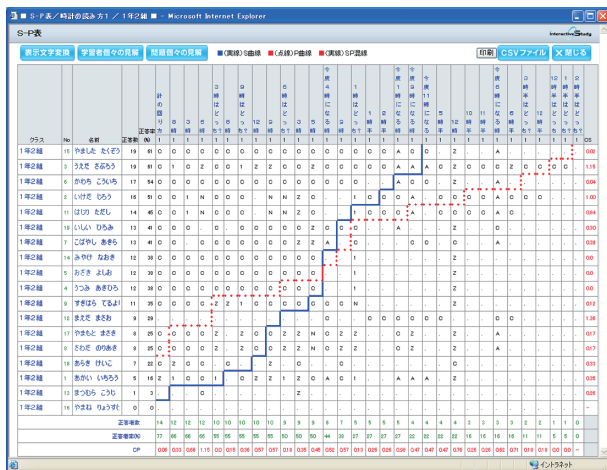
内地留学していたころより、平均年齢は10～20歳も増大しています。

画面と対話しながら学べる、いろんなシーンで学べる インタラクティブスタディ Ver.3 を新発売

「インタラクティブスタディ」が、先生方から頂きましたご意見・ご要望と、端末機の Windows Vista OS への対応により、新製品 Ver.3 に進化しました。

■個に応じた指導に必要な学習者の理解度がさらに把握しやすくなりました！

前号 (ECO News 100 号) での臼井先生のご意見にもありましたように、理解度・問題の適正度をさらに把握しやすくするため、S-P (Student-Problem score table) 表に学習者の理解度を示す S 曲線、問題の適切度を示す P 曲線の表示を追加しました。



S-P 表画面に S 曲線、P 曲線を表示

■授業の準備が短時間で、より簡単に！

より簡単に授業で活用していただくための、3つの機能が加わりました。

①カンタンみんなでスタディ

先生がログインすることなくクラスと教材を選ぶだけで、簡単に授業を行うことができます。名簿作成が自動的に行われるので、初めて「スタディサーバ for Web」をお使いになる場合や、年度初めの名簿の準備が整っていない場合などに、すぐに授業でご利用いただけます。

②かんたんログイン

学年、組、番号を候補リストから選択するだけでログインすることが可能になりました。キーボードを使った文字入力に不慣れな子ども達も簡単にログインして学習が行えます。設定により、パスワード入力を設けることも可能です。

③スタディノートと名簿連携

スタディシリーズの教育用グループウェア「スタ

ディノート Ver.7」の名簿を、そのまま「スタディサーバ for Web Ver.3」の名簿としてご利用いただけます。「スタディノート Ver.7」側で名簿の更新を行うと、「スタディサーバ for Web Ver.3」の名簿に自動的に反映されますので、名簿の一元管理を行うことができます。(V7.0B 以降のバージョンの「スタディノート Ver.7」が必要です)

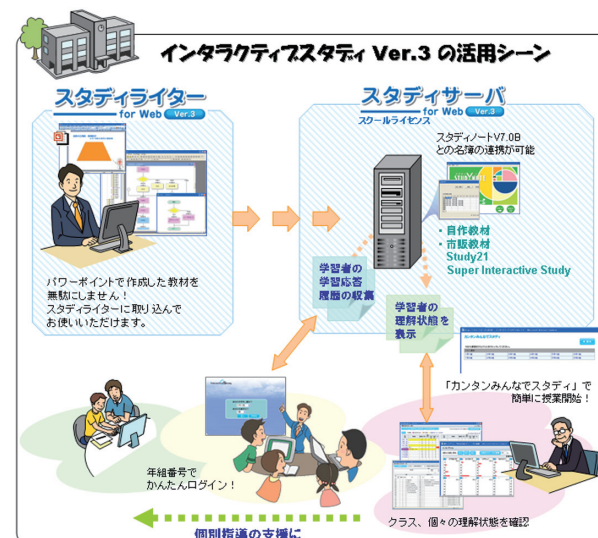
■これまでのデータを有効活用して教材作成！

「スタディライター for Web Ver.3」はフローチャートを書く感覚で「スタディサーバ for Web」で使用する教材を作成することができる教材作成支援システムです。

①Excel データから教材の自動作成を行う CASA 機能に加え、PowerPoint データを WMF/EMF 形式に保存したファイルを教材に変換できるようになりました。これまでに作成したデータを有効活用して、教材を容易に作成することができます。

②画面の印刷機能により全画面のサムネイル印刷が可能となりました。教材のマニュアル作成や全体像の把握がしやすくなります。

③教材の改訂を効率よく行なっていただくための機能として、教材内の全文検索・置換機能が新しく追加されました。



製品の詳細につきましては、スタディシリーズのホームページ (<http://www.study.gr.jp/>)、または、シャープシステムプロダクト (03-3267-4656 / 06-6625-3233) までお問合せ下さい。

Study21 個別学習用に2年生向けの教材が登場！

株式会社東大英数理教室

<http://tek.jp/study21/>

Study 21シリーズはおかげさまで発売開始から2年となり、これまでに個別学習用35単元・提示用25単元を発売させていただくことができました。今回はその中から、新たに加わった2年生の個別学習用教材「たし算とひき算のひっ算」を例にStudy 21の特長をご紹介します。

■ Study 21 教材紹介

「たし算とひき算のひっ算」

Study 21 個別学習用は、「じゅんぴたいそう」「力だめし・にがてクリア」「れんしゅう」「テスト」「チャレンジ」の5つのブロックで構成されています。



・じゅんぴたいそう

「じゅんぴたいそう」ではその単元に関連する既習事項の確認を行います。

低学年の児童にとってこのブロックが長いと、飽きてしまったり、本単元の内容がぼやけてしまったりしがちです。そういった児童の実態に合わせて、「たし算とひき算のひっ算」では問題数を抑え、問題の内容も基本的な問題を設定しています。

・力だめし・にがてクリア

Study 21 の各教材には10～14の学習目標が設定されています。「力だめし」では各目標にそ

った問題が出題され、その目標の達成度に応じて自動的に「にがてクリア」と呼ばれる補充学習を行うコースに進みます。

補充学習を行うコース（補充コース）では、図1のように、子どもたちの考える過程に合わせて質問し、その応答によってメッセージや進む画面が違ってきますので、個々の実態や考え方に応じた学習が可能です。

・れんしゅう

「力だめし・にがてクリア」ブロックで補充コースに進んだ回数に応じて、練習問題「15問コース」「10問コース」「5問コース」に自動的に進みます。

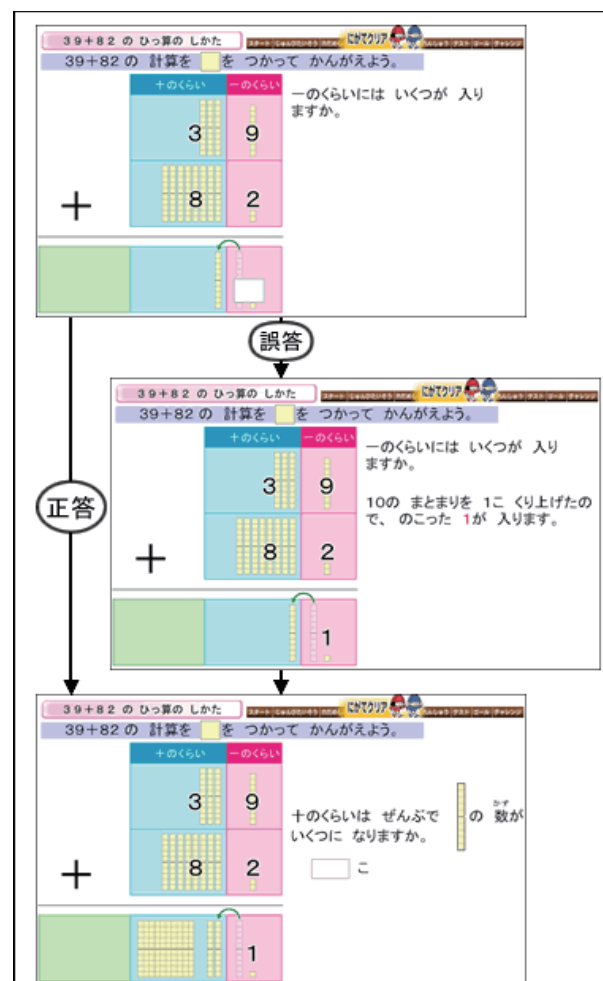


図1 「たし算とひき算のひっ算」
目標1～3の補充コース(全54画面)より抜粋

低学年向けのコースでは、よりコースをイメージしやすくするために、「15問コース」→「どんどんコース」、「10問コース」→「しっかりコース」、「5問コース」→「じっくりコース」とコース名をつけています。

・テスト

Study 21では、プレテスト（力だめし）とポストテスト（テスト）を実行しており、下図のように、どれだけ学習効果があったのかを一目で確認することができます。これは各教材で、それぞれ行われております。



・チャレンジ

低学年の場合、計算の得意な児童などは、早く進みすぎて次に何をやってよいのか分からないという状況がよく見られます。このような場合に備えて、Study 21では、数段階のチャレンジ問題を用意しています。まず教科書の中の比較的難しい問題から始め、徐々にレベルアップし、ほぼどんなに高いレベルの児童でも丁寧に対応する仕組みになっています。

■Study 21 製品ラインナップ				(個…個別学習用 提…提示用)			
学年	単元名	個	提	学年	単元名	個	提
2 年	たし算のひっ算	○	-	5 年	小数と整数	○	○
	ひき算のひっ算	○	-		小数と整数のかけ算・わり算	○	○
	100より大きい数	○	-		分数のたし算とひき算	○	○
	たし算とひき算のひっ算	○	-		小数のかけ算	○	○
	1000より大きい数	○	-		小数のわり算	○	○
3 年	時ごとと時間	○	-	6 年	面積の求め方	○	○
	わり算	○	-		割合	○	○
	たし算とひき算	○	-		倍数と約数	○	○
	あまりのあるわり算	○	○		分数のたし算とひき算	○	○
	大きな数	○	-		単位量あたりの大きさ	○	○
	かけ算の筆算 (1)	○	○		分数と整数のかけ算・わり算	○	○
	重さ	○	-		分数のかけ算とわり算	○	○
4 年	かけ算の筆算 (2)	○	○		体積	○	○
	わり算の筆算 (1)	○	○		比	○	○
	小数	○	○		比例	○	○
	分数	○	○	個別学習用・単元別	各 7,350 円		
	わり算の筆算 (2)	○	○	提示用・単元別	各 5,250 円		
	がい数	○	○	個別学習・提示セット単元別	各 10,500 円		
	式と計算	○	○	お得な全単元セットもあります。			
	面積	○	○				
※各製品は「スクールライセンス」での提供です。同一施設内の全コンピュータでお使い頂けます。							

東京都日野市では、「ひのっ子21開発委員会」の小学校部会が、Study 21を活用して、インタラクティブスタディによる効果的な指導方法の開発・普及の研究を実施しています。また、学習記録を分析して、その結果を教材の改善に役立てる産学共同研究も行われています。教材数が充実してきたStudy 21ですが、あわせて学習記録の分析に基づく教材のさらなる改善が期待されています。

改善に関するご意見などはプロジェクトリーダーの東原 (higashi@shinshu-u.ac.jp) まで、お寄せください。

「基礎学力向上」支援教材 Super Progress

平成 19 年 4 月より、全国の小中学校で「全国学力・学習状況調査」（通称「全国統一学力テスト」）がスタートしました。このたび進学会システムでは、このテストで要求される「基礎学力向上」を支援する教材として、“Super Progress” をリリースいたします。誤答に対する解説&類題演習により、児童・生徒自らが進んで学習できる教材となっております。（進学会システムホームページ <http://www.shingakukai.co.jp/soft/>）

■実際の出題から単元を選定

本年 4 月に行われた「全国学力・学習状況調査」に出題された問題を分析し、小学算数・中学数学あわせて 40 ページにわたる分析表を作成いたしました。この分析表（表 1）に基づいて進学会システム「Super Interactive School V2.5」より単元を選定しております。

■算数・数学は 3 大分野を網羅

算数・数学における 3 大分野と言える「計算」、「関数」（小学校版は「割合」）、「図形」の範囲からバランスよく単元を選定して、学力向上に必要な知識を無駄なく身に付けられる構成になっております（右画面）。

■国語力向上に欠かせない基本分野を網羅

国語力の向上に欠かせない基本分野である「読解」、「言葉・文法」、「漢字」（中学校版の「読解」分野は現代文と古典をカバー）の範囲を網羅し、目的に合わせた基礎力を身に付けることができます。

小学校用算数教材の例

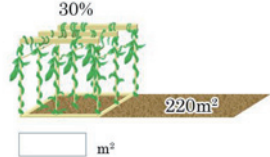
問題

次の計算をしましょう。

$$\begin{array}{r} 3.4 \\ \times 16 \\ \hline \end{array}$$

問題

学校には 220m² の畑があり、そのうち 30% にヘチマを植えてあります。ヘチマを植えてある面積は何 m² ですか。

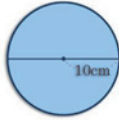


30%
220m²
 m²

(計算分野)

問題

円周率を 3.14 として、次の円の面積を求めなさい。



cm²

(割合分野)

(図形分野)

表 1 調査問題の分析

問題番号	出題の趣旨	出題された問題	該当教材名	問題例
1	(1) 繰り上がりのある加法の計算をすることができるかどうかをみる。	28 + 72	「 <u>くり上がりのあるたし算</u> 」	58 + 12
	(2) 整数と小数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる。	27 × 3.4	「 <u>整数 × 小数の計算</u> 」	28 × 1.3
	(3) 小数と小数の乗法の計算をすることができるかどうかをみる。	9.3 × 0.8	「 <u>小数 × 小数の計算</u> 」	7.6 × 0.4
	(4) 整数と小数の除法の計算をすることができるかどうかをみる。	12 ÷ 0.6	「 <u>整数 ÷ 小数の計算 (あまりなし)</u> 」	24 ÷ 0.6
	(5) 同分母の分数の減法の計算をすることができるかどうかをみる。	1 - $\frac{5}{8}$	「 <u>分数のひき算</u> 」	1 - $\frac{3}{4}$

【編集後記】 教育におけるコンピュータ利用をとりまく環境が転機を迎えているようです。最近、著名な月刊誌が休刊となりました。しかし、スタディはバージョンアップ、教材の増大と、発展し続けます。（東原）

発行人： 21 世紀教育研究所

Educational Research Institute for the 21st Century

代表 中山 和彦

〒 305-0045

茨城県つくば市梅園 2-33-6

電話 029-850-3321

FAX 029-850-3330

Email econews@eri21.or.jp

URL <http://www.eri21.or.jp>